

モザンビーク中部堆積盆地のガス鉱区における開発状況

1. Pande/Temane ガス鉱区の開発状況

モザンビーク中部のモザンビーク堆積盆地では、植民地時代からガス田が発見されていたが（1961年のPandeガス田、1962年のBuziガス田、1967年のTemaneガス田）、独立戦争や内戦等のためガス開発は近年まで行われていなかった。

内戦後の2000年、SASOLはPande/Temaneガス田のコンセッション契約（Petroleum Production Agreement: PPA）を取得し、2004年からTemaneガス田にて生産を開始している。

2009年には、Pandeガス田においても生産が開始された。大部分のガスは、ガスパイプラインを通して南アフリカに輸出されているが、モザンビーク国内では、(1) マトラガス会社、(2) ENHとKogasのJV、(3) ガス火力IPPのCTRG社との間でもガス販売契約が結ばれている。天然ガスの中央処理施設（CPF）では、年間183GJの天然ガスが生産されており、2017年には年間197GJまで増加することが見込まれている。Pande/TemaneのPPAは、SASOLがオペレーターとして70%の権益を取得しており、モザンビーク炭化水素会社（CMH）が25%、資金提供したIFCが5%の権益を取得している。PPAでは、Pande/Temaneのガス田を対象としているが、「Production Sharing」項目¹が削除されている

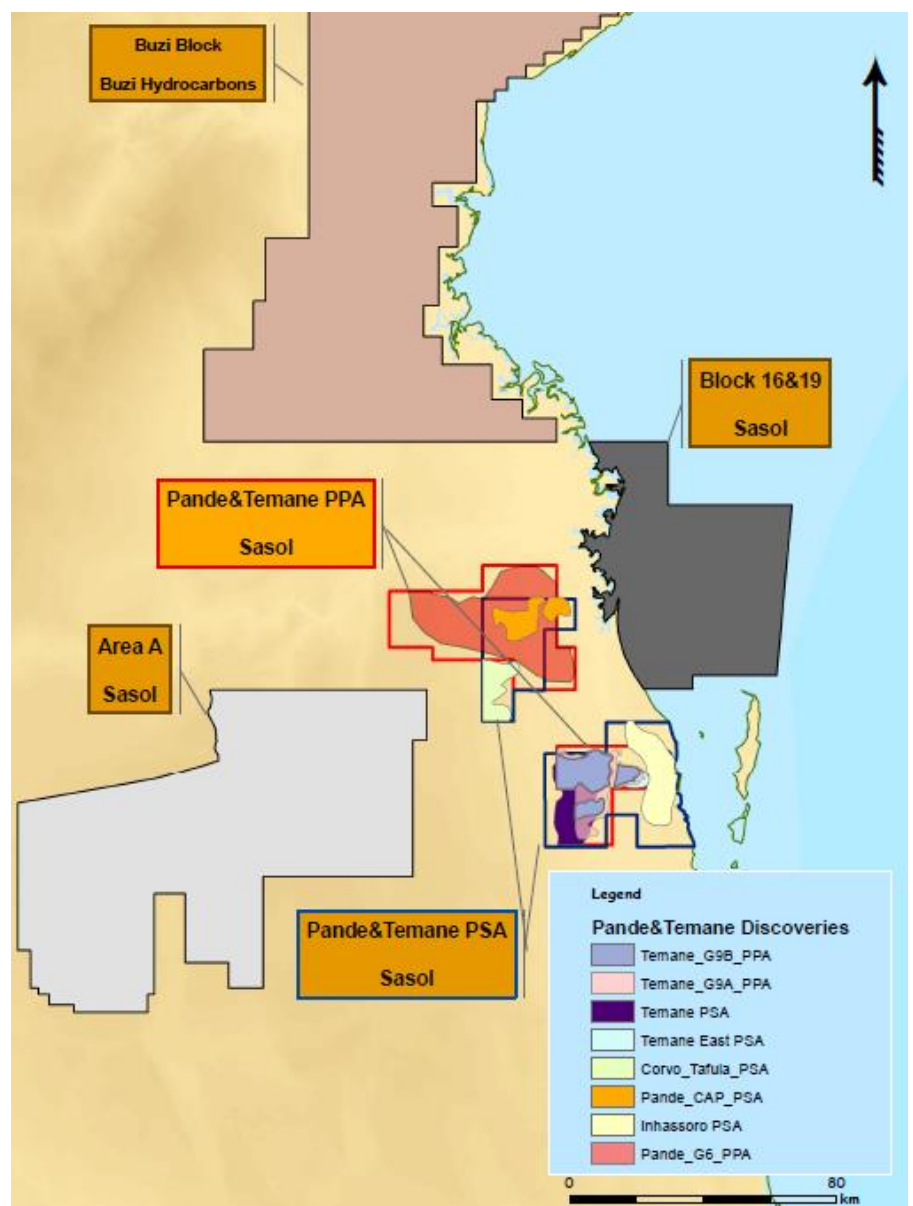


図1：モザンビーク堆積盆地のガス鉱区の位置図

¹ 「Production Sharing」項目とは、生産物分与と呼称されており、生産された天然ガスがコスト回収分と利益相当分に区

ため、ロイヤルティと法人税支払いのみが義務付けられている。PPA ガス田の可採埋蔵量は、5.5 TCF である。

一方で、「Production Sharing」項目が含まれているコンセッション契約（Production Sharing Agreement: PSA）が同じく 2000 年に Pande/Temane ガス田の近郊地域において締結されている。PSA として生産物分与が可能となっているが、SASOL が 100%の権益を有している。そのため、モザンビーク政府は、PSA 鉱区の権益を取得することも検討しているという。国家石油院（INP）によると、PSA の Inhassoro には、0.8 TCF のガスと 328 MMSTB の軽油の可採埋蔵量が確認されている。2016 年 1 月、モザンビーク政府は、PSA における開発計画を承認した。SASOL は、PSA 鉱区における 12 本の試掘を開始する予定である。PSA の開発計画では、追加の CFP 建設や CPF 近郊に 400MW 規模のガス火力発電への天然ガスを供給することが計画されている。軽油については、LPG ガスを生産することが計画されており、国内市場にも販売される予定である。PSA 開発の第一段階では、14 億ドルの事業費を投与する予定である。

表 1：モザンビーク堆積盆地のガス田鉱区

項目	AREA 16&19	AREA A	Busi Area	Pande/Temane (PPA)	Pande/Temane (PSA)
オペレーター	Sasol	Sasol	Busi Hydrocarbons	Sasol	Sasol
本社	南アフリカ	南アフリカ	インドネシア	南アフリカ	南アフリカ
権益保有者	SASOL (50%) Petronas (35%) ² ENH (15%)	SASOL (90%) ENH (10%)	Buzi Hydrocarbons (75%) ENH (25%)	SASOL 70% ENH 25% IFC (5%)	SASOL (100%)
ガス可採埋蔵量	-	-	-	5.5 TCF	0.8 TCF
軽油可採埋蔵量	-	-	-	-	328 MMSTB
開発状況	探査中	探査中	探査中	生産・開発中	開発計画の政府承認

出典：INP

分され、前者については事業者に配分され、後者については、事業参加者に配分されることを指す。

² Petronas が本コンセッションを放棄しており、モザンビーク政府がこれを承認すれば、SASOL に AREA 16&19 の権益の 85%が移譲されるとのことである。

2. その他のモザンビーク堆積盆地における開発状況

SASOL がオペレーターである AREA 16&19 ガス鉦区の近郊の海底では、2008 年、Njika ガス田が発見された（図 2）。Njika ガス田は、1.17 TCF の埋蔵量が推定されているが、ガス田の海底深度と地形上の困難さから、コンセッショナーは Njika ガス田を放棄しており、商業化に向けた開発を行っていない。AREA 16&19 では、マレーシアの Petronas が 35% の権益を放棄しており、モ国政府がこれを承認すれば SASOL は 85% の権益を所有することになる。

AREA A は探査中であり、2016 年には 1 本の試掘を行うことが予定されている。試掘のための機材は、既に Pande/Temane の PSA 地域に配備されているとのことである。AREA A は、SASOL が 90% の権益を所有しており、ENH が 10% の権益を所有している。

ソファラ州の SOFALA ガス鉦区は、同じく SASOL がオペレーターとして探査していたが、SASOL は、この鉦区のコンセッションを放棄した。

Buzi ガス鉦区は、植民地時代からガス田が発見されており、14 BCF の埋蔵量が確認されているが、依然として探査の段階であり、まだ試掘が行われていない。一方で、600km の 2 次元地震探鉦が実施されており、データが収録されている³。Buzi ガス鉦区のオペレーターは、インドネシア資本の Buzi Hydrocarbons Pte Ltd. であり、権益の 75% を取得している。Buzi Hydrocarbons のオーナーである PT Energi Mega Persada Tbk は、所有している権益の 50% を売却するとの報道があり、現在 3 社が権益譲渡の候補となっており、今年中には権益譲渡の交渉を完了したいとの報道がある。

3. 日本企業の参加の機会

Pande/Temane 鉦区以外では、ガス田が発見されているにもかかわらず、本格的な探査が行われていない。Buzi 鉦区については、権益移譲の交渉も行われており、AREA A 及び AREA 16 & 19 についても、権益移譲の可能性があり、日本企業の参加の機会もある。また、ロブマ堆積盆地の AREA Onshore のように、探査コンセッション終了時に鉦区を取得することも検討される。

Pande/Temane の PPA 及び PSA では、ガス生産の増加及びモザンビーク市場へのガス供給の増

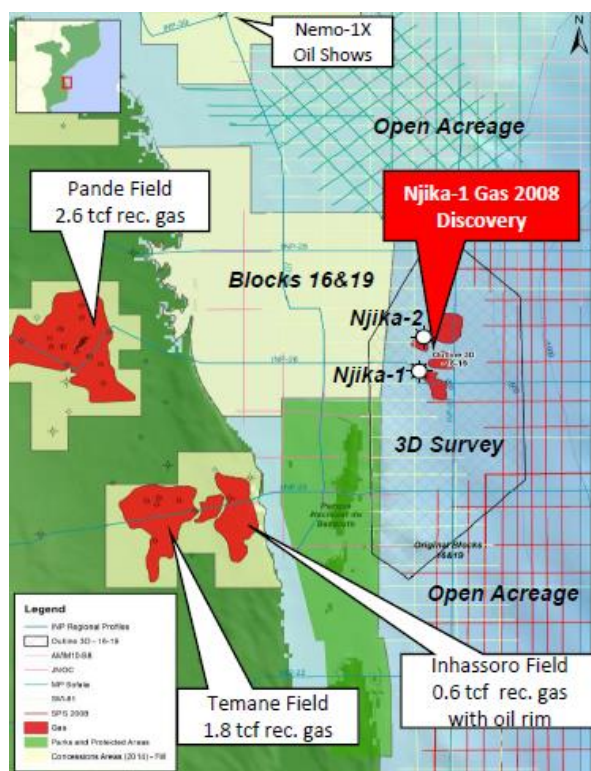


図 2 : Pande/Temane のガス田と Njika ガス田の位置図

³ 2 次元地震探鉦の結果、13.4 TCF のガス埋蔵量が推定されているが、まだ試掘が行われておらず、確認されていない。

加、LPG やガス火力発電が計画されており、発電以外のガス下流においてもビジネスチャンスがある。今後予定されているガス生産の増加及びガス開発における調達においても、参加の機会がある。